

令和 6 年度 第 6 回太子町地域公共交通会議概要

日 時：令和 7 年 3 月 24 日（月） 午後 3 時～午後 4 時 15 分

場 所：太子町立生涯学習センター 太子の森

議 題：

- （１）改善内容の具体案について
- （２）その他

議事内容：

（１）改善内容の具体案について

（資料 1、1-1、1-2、1-3、1-4、2 に基づき、事務局より説明）

《質疑応答》

高谷委員 回送を利用して便を増発することについて大いに賛成である。私も以前より空で走るより、バス停に停まって人を乗せて行ったほうがよいのではないかと思っていた。この回送利用便については、駅と役場間のシャトルバスではなく、通常と同様に各バス停に停まるのかを確認したい。

それから乗り継ぎ券についても当然あるべきだと思う。地域によって町内でコミバスを使うのに 400 円かかるところと、200 円で済むところとで差があるのはおかしいので、太子町内のどこに住んでいてもコミバスは 200 円で利用できるようにすることは絶対に必要だと思う。ただ、この乗り継ぎ券について、金剛ふるさとバス（近鉄バス）との乗り継ぎでは発行しないとなっている。しかし太子地区に住んでいる人は、近鉄バスしか利用できない。だから近鉄バスとコミバスの乗り継ぎ券もぜひ進めてほしいと思う。この金剛ふるさとバスは 4 市町村で運営しているバスなので、我々が声を上げれば 4 市町村の中で検討が進められるのではないかと思うので、ぜひお願いしたい。

あと、福祉センターへ行く場合に、太子地区ではコミバスが通っていないので、どうしても割高になる。役場まで金剛ふるさとバスに乗って 190 円を払い、そこからコミバスに乗ることになる。その一方で、地域によってはコミバスのみで福祉センターに行ける場合は無料である。こうした地域差があるのは不合理なので、見直していただきたい。

商業施設前にバス停を新設するのは、大歓迎である。現状では商業施設へ行くには梅川橋のバス停で降りて、買い物をしたら荷物を持ってまた梅川橋に戻って来なければならないので、商業施設前にバス停ができれば、住民もより便利

になると思う。

猪井会長：今の話の中で、金剛ふるさとバスとの乗り継ぎについては、高谷委員がご指摘のとおり、4市町村での調整案件になる。ふるさとバスからたいしのってこバスに乗り継いだ際にのってこバスで割引すること自体は可能だと考えられるが、その場合、往路と復路で料金が異なってしまうなど不都合が生じる。金剛ふるさとバスも割引をする場合は各市町村との調整が必要になるだろうし、これを実施すると全体的に町民の負担が増えるということもある。この場で実現の可否をすぐに答えることは難しいので、検討するという答えになると思うが、事務局はどうだろうか。

事務局：会長の話にもあったとおり、他の市町村との関係もあるので、このような意見があったことについて、それぞれの市町村や近鉄バスへも情報共有していきたいと思う。

それから回送便に関して、直通便になるかどうかとの質問をいただいたが、これについては、資料1の赤い点線で示している、駅から役場、役場から駅の間の既存のバス停には全て停車し乗降いただける形で考えている。

猪井会長：私からも少し確認させてもらいたい。資料2のスケジュールで10月1日に改善内容の実施とある。これはフィーダー補助を受けることを想定したものだと思うが、高校生など学生のことを考えると、9月1日に開始するほうがよいのではないか。9月から開始する場合は町に少し負担がかかってしまうが、10月1日は水曜日で中途半端であり、少なくとも9月最終週の月曜日からスタートするなどの案もあるのではないかと感じた。

事務局：ご指摘のとおり、スケジュールを作成する中で、やはり補助を受けることを踏まえたということがある。国の補助は10月1日から1カ年を周期とするものであり、それに合わせたスケジュールとなっている。9月にすることもできると思うが、補助を受けるにあたり別途どういう手続きがあるかといったことを運輸局に相談した上で検討していく必要がある。

猪井会長：フィーダー補助には新規性要件など様々な制約があると思うので、運輸支局と調整いただき、9月に開始することや少なくとも2～3日前倒して月曜日開始にするなどの案も含めて検討してはどうか。

高谷委員：以前の会議で、施設等利用券の使用によりコミバスの利用者が増えている資料

があった。利用券が開始された 11 月からコミバス利用が増えており、2 月の実績はまだわからないが、11 月から 1 月にかけて 9 月 10 月との比較で 2～3 割近く増加していた。これはつまり、需要がなくなったのではなく、住民は乗りたいと思っているが、高いから乗っていないということであり、安ければ乗るわけである。だから運賃を 200 円ではなく 100 円にして、運賃が半分になった分、倍の人に利用してもらおう。空バスを走らせるのではなく、安くして多くの人に乘ってもらえれば、健康的なまちにも繋がっていくと思う。以前は 70 歳以上の住民を対象にお出かけ支援制度があったが、金剛バスの廃止に伴いお出かけ支援も廃止されてしまった。これを復活させるべきだと思う。もっと多くの方が乗れる便利なコミュニティバスにしたいというのが私の思いである。ぜひ検討してもらいたい。

猪井会長：この辺りは学問的にも難しく、運賃を半分の 100 円にしたら利用が倍に増えるということはないと言われている。価格弾力性というのだが、だいたい 1.5 倍くらいに留まると言われており、運賃を下げた分、収益が減るので、そのコストを補わなければならなくなる。もしこの手出しがなくて済む方法があれば学問的には知りたいところであるが、バスの場合はこの弾力性が硬いので、なかなかそこまで上がってこないというのが我々の知見である。そうすると当然予算の確保が必要になるので、町としてはそこをどうするかの問題となってくる。また健康確保の観点については、そこまで踏み込むのかどうか、町として議論してもらえればと思う。

事務局：施設利用券の効果については、この制度の期間が昨年 11 月からこの 3 月までなので、4 月以降に改めて以前と比べてどれだけ効果があったかなどについての検証を考えている。

また、お出かけ支援制度の復活等については、本来は所定の運賃を支払ってもらべきものと考えている。これに関して、他都市の事例も参考にしながら今後検討していく課題かと思うが、まずは今回提示した新たな路線等により、何とか今以上に利便性を高めていきたいと考えているので、その辺りを踏まえて協議いただき、支援制度については長期的な視点にて今後皆様と議論していければと考えている。

西田委員：資料 1 に改善内容の具体案が 5 つ挙げられているので、それらについてお尋ねしたい。

①乗り継ぎ券の発行について。畑から駅まで行くのに、直通便なら 200 円だが昼間は乗り継いで 400 円になり、面倒なほうが高くついているという問題は片

付くと思う。ただ、乗り継ぎ券の使い方が、運転手の方に申告してチケットをもらい、乗り継いだバスでまたチケットを出すという手間としては改善されていないと思う。だからこの先の課題として定期券を発行するとか、70歳とは言わないが、例えば80歳以上の方には、1枚あればコミバスに乗れるといったものを発行するとか、手間の軽減を先々考えていってもよいのではないかと思った。

②商業施設前のバス停の新設について。現状では買い物に行っても帰る便がなく、バス停も商業施設からやや離れているので、新たにバス停がラ・ムーとカインズに間にできるというのは一歩前進だと思う。ただ、先ほど、太子地区のバスが少ないという話があったとおり、資料1を見ても確かに走っているバス路線は少ない。ラ・ムー、カインズの前を通過して葉室に向かう路線のところを見ると、その辺りにはバス停がないので、エネオスのガソリンスタンドのところから少し先の新昭和町と伽山に下りてくるところ辺りにバス停があったら、少し乗る方が増えてよいのではないかと思う。この辺りにもう一つバス停を増やすことができれば、太子地区のバスが少ないという課題も多少は解消できるのではないか。山城バイパスもできるし、検討してはどうかと思う。

猪井会長：今の話の一つめは、乗り継ぎ券の使用の手間の軽減に向けて定期券など検討できないかということであったので、今後引き続き検討が必要なところかと思う。二つめのバス停の話について、事務局は場所がわかるか。

事務局：はい。新美原太子線の側道に分かれるところ辺りで、地区名で言うと伽山というところになる。エネオスのガソリンスタンドを過ぎた辺りである。

猪井会長：バス停を新設するには整備に費用はかかるが、検討してみてもいいのではないかと思う。今この場で、バス停を新たに置くかどうかの返事はできないが、ご意見をいただいたので事務局で検討してもらえればと思う。

西田委員：資料2の説明の中で触れていたと思うのだが、今回はパブリックコメントをしないと言っていたか。

猪井会長：前回の会議ではパブリックコメントを取るという説明だったが、軽微な変更になるので、パブリックコメントは取らないことにしたいという説明だったと思う。

西田委員：では住民の意見は全く聞かないということか。

猪井会長：住民の意見を聞くとしたらいつ実施するのかというご指摘だと思う。専門的なところから言うと、7～8月は自家用有償旅客運送登録証の登録の変更があるので、地域の意見をいただくことも大事ではあるが、ここでは他の事業体も含めて、この会義にて議論していただくことが大事かと思う。

今の西田委員の話に関連して確認したい。資料2で4～5月に地域公共交通計画の一部改定との記載があり、ここまでに改定を終えて6月に補助申請をして、10月に運行する流れになると思う。それで運輸局に聞きたいのだが、計画の改定に関しては、書面開催でもいいのではないかと思うのだが、どうだろうか。

釈迦戸委員：町が考えている方向性や論点を支局の担当者に伝えて確認してもらい、そのような形で問題ないということであれば、会議体で了承を得た上で、それで進めてもらってよいと思うが、この場での可否の回答は控えさせてもらう。

猪井会長：おそらく自家用有償の登録に関しては対面で会議を行ったほうがよいと思うが、4～5月の改定については、会議を開催して皆で集まって、改定内容を確認して承認という手続きだけだと思うので、そこに手間をかけるよりは、西田委員が指摘されたように、住民の意見を聞くほうがよいのではないか。それがパブリックコメントなのか住民説明会なのかわからないが、他の市町村だとバスの運行を変えるときに説明会をするケースもある。説明会をもってパブリックコメントに代える方法や、もう少し簡易的な形で住民の声を聞けるよう手法を検討してみても良いのではないか。実際に変更されるのが10月なので、変更点について説明し、利用喚起も併せて行うといったことをするケースもあるし、その前の段階で、現行の体制になって1年半が経つので、実際に利用してみてどうだったか意見を聞いてみることも考えられる。4市町村の会議でもそれぞれ地域を回っており、その太子版をするのかどうか検討してみしてほしい。パブリックコメントをしないと補助が受けられないということがあったら困るので、確認の上で、必要であれば4月の会議を書面で済ませて、そちらに取り組んではどうかと思う。これは要望ではなく、一つの意見として、参考にしてもらえればと思う。

事務局：4～5月の交通会議は書面でもよいのではというご指摘については、釈迦戸委員からも話があったとおり、運輸局の担当の方と詳細を詰めたいと思う。基本的に計画の変更内容は、イメージで申し上げると、資料1で水色の路線が新たに追加になること、回送便を活用した駅と役場間の便が追加になること、これらの変更になる。あと4市町村の関係で、4市町村の計画がこの年度末で策定

される予定であり、本町の計画の中にも4市町村の計画に関する箇所があるので、4市町村の計画策定に伴い、それに連動するところは若干文言の修正は行う。本町の計画の変更はおおよそ以上の点で、軽微な変更であるため、パブリックコメントは実施しない旨を先ほど申し上げた。

10月からの運行にあたっては、時刻表も変更されるので、その辺りも含めて説明会を実施してはという猪井会長からのご意見については、また内部で調整を図っていききたいと思う。

猪井会長：運輸局の申請担当の方と調整いただき、今後町として何をしていくべきか検討してもらいたい。

あと実際の運行については、運行管理の調整や、バスと電車の乗り継ぎ、運転士の方の休憩なども踏まえて、具体的にダイヤに落とし込むところは事務局に一任いただければと思う。

基本的に計画に書かれるのは、資料1に記載のある右側の路線図で、水色の路線が変わることと、赤い点線の路線が追加されることになる。

西田委員：商業施設前にバス停ができるのは大変嬉しく思うのだが、この太子西条線は歩道が広がっているので、バス停の設置にあたり、バスを引き込むように歩道を変えるのか。

それから商業施設からの帰りに梅川橋のバス停を利用した方が、買い物をした荷物を持って炎天下の中バス停まで歩いて、さらにそこでバスを待つのが辛いという話を聞いたので、新設のバス停には待合いができるかどうかを教えてほしい。

あと役場前のバス停が1カ所に集約されるのは間違いなくよいことだと思うが、金剛ふるさとバスのほうは、太子方面行きのバス停が六枚橋になっている。これは公民館を潰すために一時的にということだったと思うが、現在はもう公民館もなくなっている。それで、この六枚橋のバス停は今後もこのままなのか、それとも暫定的なもので将来的には変わるのか教えてほしい。

猪井会長：一つめのご質問はバス待ち環境ということになると思う。バス待ち環境の改善については、ベンチや上屋を付けられるところは付けることにはなっているが、確かここは社会資本整備総合交付金などで整備をしており、補助制度上の制約があるかも知れないので、できる範囲で少し待ちやすいようにしてもらえたらと思う。

あと、六枚橋のバス停が以前の場所に戻るのかどうか、事務局から説明してほしい。

事務局：六枚橋のバス停については、資料 1-3 で示しているものは現状の変更案である。予定では公民館の跡地にバス停を戻す予定である。役場前は従前より申し上げているとおり、結節点になるので、戻した先のバス停には上屋を付ける予定であり、役場前の庁舎側のバス停の上屋と同様の形で設置していきたいと考えている。

ただ、商業施設前のバス停については、現状では上屋までは予定していない。今後利用が多くなれば、当然考えていく必要があるが、今のところは役場前のバス停のように、歩道内への引き込みの形にすることも考えていない。

西田委員：歩道の改良などは今後たくさんの人が利用するようになったら考えてもらうとしても、せめてベンチを置くといったことくらいは考えてもらうように、要望しておく。

猪井会長：事務局に確認するが、詳細のダイヤ調整については事務局に一任いただくとして、資料 1 で提示された変更内容について、この場で承認いただくということではよいか。

事務局：はい。資料 1 の内容について、この会議で承認を得られるか諮っていただければと思う

猪井会長：では、資料 1 のような形で公共交通計画を変えて、実際に変更した計画書の確認については、来年度に対面の会議を開くか書面で行うかは要検討であるが、このような内容で地域公共交通計画を改正することについて同意いただけるか。

委員一同：異議なし。

猪井会長：では、この内容で改正していくこととする。

(2) その他

- 「新モビ FESTA」、「SAKURA でマルシェ」の開催予定について
(資料に基づき、事務局より説明)

《質疑応答》

西田委員：今日 1 時頃に車に乗っていたら、この自動運転バスが走っているのを見かけた。

今日は何かあったのか。

事務局：3月下旬に2週間程度、走行試験がされている。

西田委員：太子町内を走るのに、大阪府が勝手にやっているということか。

事務局：スケジュールについては事前に共有してもらっている。

名倉委員：来年度に向けて、太子町や4市町村協議会の各自治体はそれぞれ予算を組んで、議会を通っていると思う。太子町では、たいしのってこバスと4市町村協議会のバスと合わせて8000万円くらいの予算を組んでいると思う。これまでは交通会議では予算の関係の話はあまりしてこなかったようだが、それは元々この会議が発足したときは金剛バスが運行しており、それにどうジョイントしていくかといった論点が中心で、経費のことはあまり気にしないで議論ができたからだと思う。それで来年度の10月からまた新たに改善された内容で運行されるわけだが、私が心配なのは、現状の1号車2号車を運転士3人で運行し、先日運転士が運行中に具合が悪くなったこともあり、また運転士も今後年齢を重ねて、その辺りの配慮の必要も出てくるかもしれない。そうしたこともあるので、今後は安心して運転してもらえるような経費もどこかで必要になってくると思う。予算は議会で決めるものであるが、せっかくこの会議で議論しているのだから、そういうお金に関わる話、今どういう懐具合でバス事業をしているのかといった話にも触れてもらったほうがよいと思う。

大阪府の新モビリティ事業も大阪府から協議会への負担金のような形で1億7000万円くらいかけている。

太子町が多額の予算をかけるべきとまでは思わないが、お金の流れを押さえるのは重要なことだと思う。町の台所事情も踏まえて議論をすれば、またその観点からも意見も出てくると思うので、そういった内容の話を出してもらってもよいのではないかと考えている。これは意見であり、ここで答えを出すものでもないが、お伝えしておくので、よろしく願いたい。

猪井会長：正直なところで申し上げると、実は4市町村協議会のそれぞれの負担がかなり大きいので、もう少し下げていかないと提案したところである。これについて、太子町の田中町長が、まだ新体制での運行が始まってから1年なので、もっとしっかり様子を見ていかないといけないと話された。富田林市の吉村市長も、ここで予算を減らし始めるのではなく、今は利用喚起にしっかり取り組むべきであるということであった。というわけで8000万円という負担はかなり大

きいが、4市町村としては、現状そういった方向で進んでいる。

とはいえ、名倉委員が話されていたとおり、資金の状況は示さなくてよいというわけではなく、町がどれだけ負担しているかを認識し、理解の上で運賃を払ってもらい、今後持続的に運行していくことを考えると、やはりお金の部分も整理をして見える化することが大事であると考えている。

ただ、運輸系では補助や交付金で返ってくる部分もあるので、一度示した額が独り歩きしてしまうことを懸念するのわかる。その辺りの示し方が難しいところで、お金についてどのように示すのが正解かわかりにくくなっているのだと思う。

いずれにしても大変重要な意見をいただいたと思うので、お金の部分を見える化して情報共有を行い、その上で議論していかなければならないということである。

釈迦戸委員：事務局にお願いである。毎回会議の案内についてという文書をいただいている。

私どもは異動で新たに着任した場合、地域について不案内なので、どのバスに乗って来たらよいかわからないということもあり、また案内文に往路だけでもどのバスに乗れば会議に間に合うかを示してもらえれば、そのバスで行こうという気持ちになる。これは地元の方も同様で、何かの折にそういう案内があれば、今日はバスに乗ろうということになると思う。この会議の趣旨は、公共交通を維持していくことと理解しており、そういう案内をしてもらえれば、幾ばくかのプラスにもなると思うので、ぜひ検討してもらいたい。

猪井会長 本日も充実した議論ができ感謝申し上げます。令和5年度に金剛バスが廃止され、今年度はその後の新たな運行体制を動かすという1年であった。そうした中でこの会議で皆様に議論を重ねて協力いただいたことに感謝申し上げます次第である。次年度も引き続きご協力を賜るようお願い申し上げます。

事務局：以上で、令和6年度第6回太子町地域公共交通会議を終了する。

以上